住友ゴム工業株式会社
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町 3-6-9

広報部
TEL.078-265-3004

サステナビリティ推進部
TEL.078-265-3089

https://www.srigroup.co.jp/

統合報告書に関して
ご意見をお聞かせください。
※アンケートフォームは
　QRコードからアクセスください。

UD FONT 見やすく読みまちがえにくい ユニバーサルデザインフォントを 採用しています。

ECO FIRST 環境大臣認定
環境問題に先進的に取り組む
エコ・ファースト企業として
環境大臣より認定を受けました。

0.7A・24・7・TK 広 27

統合報告書 2024

住友ゴム工業株式会社

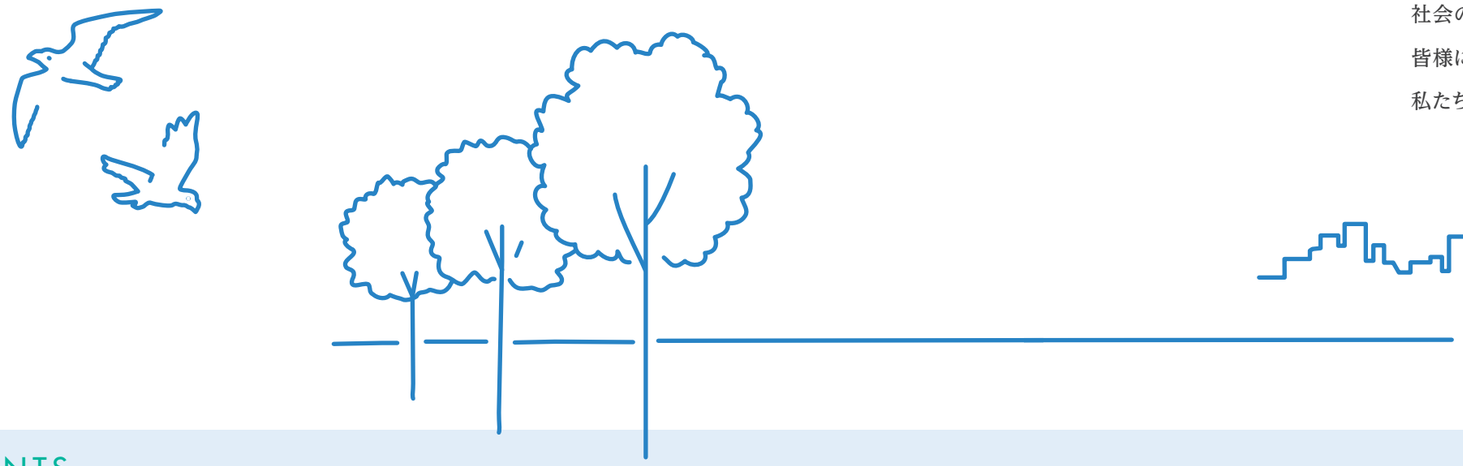
住友ゴムグループ

統合報告書
Integrated Report
2024

住友ゴム工業株式会社
SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.

Cover Story 01

ゴムの先へ。
はずむ未来へ。



私たち住友ゴムは、ゴム素材の可能性を誰よりも信じ、
さまざまな「世界初」をつくり出してきました。
ジョン・ボイド・ダンロップが世界で初めて実用化した
「空気入りタイヤ」から始まったその技術は、
タイヤのみならずゴルフ・テニスなどのスポーツ用品や、
制振ダンパー・医療用ゴムといった産業品開発につながり、
現在も未来をひらくイノベーションとして発展を続けています。

私たちのイノベーションが、製品・サービスとなり、
社会のさまざまなシーンで活用され、
皆様に「はずむ心」「はずむ笑顔」をお届けできるように。
私たちはこれからも挑戦し続けます。

CONTENTS

カバーストーリー
オリジン(原点)・歴史 …… 3
住友ゴムグループの企業理念体系「Our Philosophy」 …… 5
各事業のいま …… 7
未来の製品・サービス技術 …… 9

住友ゴムグループの価値創造
TOP COMMITMENT …… 12
価値創造モデル …… 17
住友ゴムグループの経営資源 …… 19
各事業の課題とリスク・機会
バリューチェーン上の現状認識とその取り組み …… 21
住友ゴムグループの重要課題(マテリアリティ) …… 25
サステナビリティ長期方針「はずむ未来チャレンジ2050」 …… 27

事業戦略・ビジネスモデル
At a Glance …… 30
中期計画(2023-2027)の進捗 …… 31
財務担当役員メッセージ …… 33
タイヤ事業 …… 35
スポーツ事業 …… 39
産業品事業 …… 41
技術担当役員・本部長鼎談 …… 43

住友ゴムグループのサステナビリティ経営
サステナビリティ担当役員メッセージ …… 48
カーボンニュートラル …… 50
資源循環・持続可能な原材料 …… 52
生物多様性の保全 …… 55
サプライチェーンマネジメント …… 57
環境マネジメント …… 59
人事担当役員メッセージ …… 61
住友ゴムの人的資本経営 …… 63
人権尊重の取り組み …… 69
DE&I鼎談 …… 70
コーポレート・ガバナンス …… 73
社外取締役鼎談 …… 85
社外からの評価・認証の取得 …… 89

財務・企業情報
財務・非財務データセクション …… 91
第三者検証報告書 …… 95
第三者意見 …… 96
グローバルネットワーク …… 97
投資家情報 …… 98

情報開示体系

住友ゴムグループをご理解いただくために、企業情報、財務情報、事業活動、サステナビリティ活動をWebサイトに掲載しています。
統合報告書は、各項目の重要な情報を選別して掲載しています。

Webサイト
すべての情報を網羅して掲載

企業情報
- 社長メッセージ
- 企業理念
- 経営方針
- 沿革
- 国内・海外拠点／グループ企業
- コーポレート・ガバナンス

財務情報
- 決算短信
- 有価証券報告書
- 決算説明会資料
- 株主通信
- ファクトブック

ニュースリリース

統合報告書
重要な情報を選別して掲載

商品・事業紹介
- タイヤ事業
- スポーツ事業
- 産業品事業

サステナビリティ非財務情報
- 価値創造モデル
- サステナビリティマネジメント
- 重要課題
- GRI ガイドライン対照表
- 環境省ガイドライン対照表

Cover Story 02

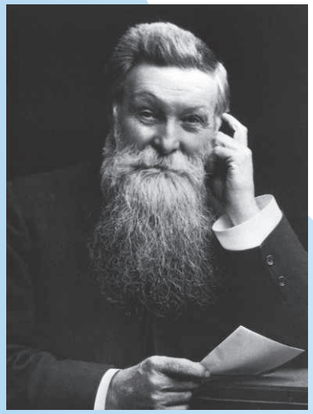
オリジン（原点）・歴史

過去から現在、私たちの軌跡。

1888

ジョン・ボイド・ダンロップが世界初の空気入りタイヤを実用化

アイルランドに住む獣医ジョン・ボイド・ダンロップは10歳になる息子のジョニーに「僕の自転車をもっとラクに、もっと速く走れるようにして」と頼まれました。ジョンは実験を重ねた末に、ゴムのチューブとゴムを塗ったキャンバスで空気入りタイヤを作り、これを木の円盤の周りに固定しました。この空気入りタイヤで走ったジョニーは大喜び。ジョンはさらに改良を重ね1888年、「空気入りタイヤ」の特許を取得し世の中に広めました。



ジョン・ボイド・ダンロップ

1909

神戸工場操業開始。
英国ダンロップ社が
神戸に工場を建設。
日本初の近代的ゴム工場
として創業（①）。

①神戸工場（1921年ごろ）

1963〜1986

1963年に住友の経営となり、「住友ゴム工業株式会社」に社名を変更。1981年、現在のFALKENブランドにつながるオーツタイヤ株式会社と全面業務提携（②）。（2003年に合併④）さらに1983年、英国ダンロップ社から欧州事業を、1984年には英独仏の6工場とタイヤ技術中央研究所を買収（③）。1986年には米国ダンロップを買収して世界のダンロップの盟主に。

②

③

④

1999〜2015

1999年、米国グッドイヤー社とタイヤ事業におけるアライアンス契約を締結し、日本やアジアは住友ゴム、北米や欧州はグッドイヤーがダンロッププランドのタイヤの製造、販売を行う合弁体制に移行。
スポーツ事業では2003年に分社後、2007年にはクリーブランドゴルフ社を、2014年にはフィットネス事業を営む株式会社キッツウェルネス（現 株式会社ダンロップスポーツウェルネス）を買収。産業品事業でも、2015年にスイスの医療用ゴム製品会社のロンストロフ社を買収して事業を拡大。
この間、2009年に創業100周年を記念してタイヤテクニカルセンターを開設（⑤）。2015年、米国グッドイヤー社との提携と合弁事業を解消。

⑤

2017〜現在

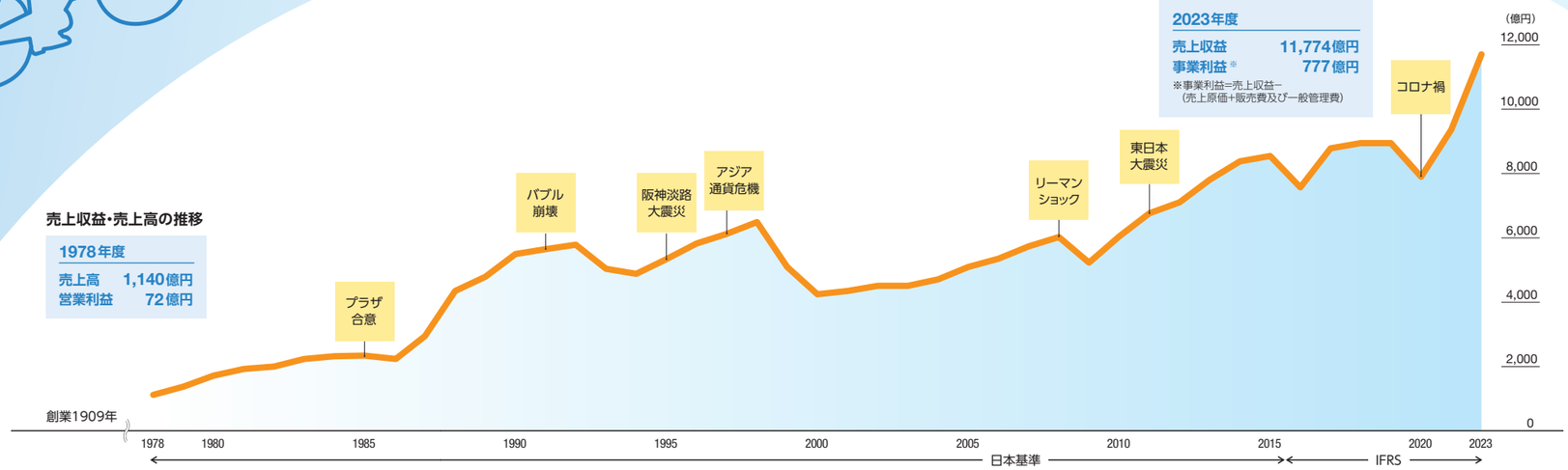
2017年、英国のスポーツダイレクトインターナショナル社から海外のダンロップ商標権、ダンロッププランドのスポーツ用品事業、ライセンス事業を買収。2018年には、住友ゴムグループのスポーツ事業を統合して一本化。
タイヤ事業では2017年、英国大手タイヤ販売会社のミッチェルディーバー社を買収し、FALKENブランドタイヤの販売を強化。
2018年の空気入りタイヤの実用化130周年、2019年の創業110周年を経て、新たなフェーズに向けて2020年に新企業理念体系「Our Philosophy」を策定。
2023年、2027年までの中期計画を策定。「既存事業の選択と集中」のためロンストロフ社の売却を決定（株式譲渡は2024年）。
2025年までに構造改革すべく取り組みを行っている。

住友事業精神の源流

住友家初代住友政友は、商人としての心得を説いた「文殊院旨意書（もんじゅいんししいがき）」を残しました。その教えは近代の「営業の要旨」を経て、住友400年の事業精神として継承され、住友グループの経営を支えてきました。「住友事業精神」には「住友の事業は住友自身を利するとともに、国家を利し、社会を利する事業でなければならぬ」という社会に対する強い使命感が込められており、住友ゴムグループの企業理念の基盤となっています。

住友政友の木像
（写真提供:住友史料館）

文殊院旨意書（1650年頃）
（写真提供:住友史料館）



主要な製品／技術

1913 自動車用タイヤの生産開始「自動車タイヤ国産第一号」誕生（⑥）
1930 日本初のゴルフボール（⑦）と硬式テニスボールの生産開始
1954 日本初のチューブレスタイヤを開発
1964 ゴルフクラブの生産開始

⑥

⑦

1966 日本初のラジアルタイヤ「SP3」の生産開始（⑧）
2000 初代「XXIO（ゼクシオ）」ゴルフクラブとゴルフボールを発売（⑨）
2012 戸建て住宅用制震ユニット「MIRAIE（ミライエ）」を発売（⑩）

⑧

⑨

⑩

2013 世界初※の100%石油外天然資源タイヤ「エナセーブ 100」発売（⑪）
※合成ゴムが主流になって以降（当社調べ）
2014 ラベリング制度最高グレード「AAA-a」を実現した50%転がり抵抗低減タイヤ「エナセーブ NEXT」発売

⑪

⑫

2015 新材料開発技術「ADVANCED 4D NANO DESIGN（アドバンスド フォーディー ナノ デザイン）」完成
2017 タイヤ技術開発コンセプト「SMART TYRE CONCEPT（スマート タイヤ コンセプト）」を発表
2018 テニスの四大大会「全豪オープン」とオフィシャルスポンサー契約を締結（⑫）
2023 タイヤ事業における循環型ビジネス（サーキュラーエコノミー）構想「TOWANOWA（トワノワ）」を策定（⑬）

⑬

Cover Story 03

住友ゴムグループの企業理念体系「Our Philosophy」

私たちを取り巻く環境は、大きくそして速く変化しています。不透明で変化の激しい環境に柔軟に対応し、さらなる成長を果たすためのぶれない共通の指針として、企業理念体系「Our Philosophy」を2020年に策定しました。

約400年間受け継がれてきた「住友事業精神」をベースに、これまでの企業理念を再編。従業員一人ひとりが、多様な力を、ベクトルを合わせて発揮するための拠り所となるものです。

Slogan

ゴムの先へ。はずむ未来へ。

Purpose

未来をひらくイノベーションで最高の安心とヨロコビをつくる。

私たちが社会で活動する理由、存在意義であり、あらゆる意思決定・行動の起点です

Story

ゴム素材の可能性を誰よりも信じること。
様々な「世界初」をつくり出してきた最先端のゴム技術と、そこから広がる新たな技術の開発に挑戦し続けること。
お客様と社会からの信頼にこたえ、その期待を超える価値の創造にこだわること。
そして、人を、社会を、未来を支える「最高の安心とヨロコビ」をつくり出し、世界へ提供する。
「住友ゴム」は、そのために存在する。

「Purpose」の背景にある私たちの信念です

Vision

多様な力をひとつに、共に成長し、変化をのりこえる会社になる。

私たちが目指す、組織としての将来像です

住友ゴムWAY

信用と確実を旨としよう	あらゆることに誠実に向き合い、お客様、仲間、社会からの信頼に応えよう。
挑戦しよう	失敗を恐れず、困難なことに取り組む勇気を持とう。
お互いを尊重しよう	お互いをよく知り、考えや個性を尊重しあおう。

住友ゴムグループ社員一人ひとりが大切にする価値観です

「Our Philosophy」浸透活動

当社は「Our Philosophy」を2020年に策定してから、全社を挙げて従業員への浸透活動を進めてきました。浸透にあたっては、「Our Philosophy」の浸透度を「認知」「理解」「共感」「実践」の4つのフェーズに分け、管理部門、生産部門、海外拠点、国内関連会社など、それぞれの状況・浸透度にあった形で施策を進めています。

2030年にフェーズ3「共感」の従業員割合80%、全社員が「Our Philosophy」を体現できている状態を目指しており、2023年度は、「認知」「理解」の従業員割合は80%を超え、「共感」は40%程度となりました。2024年は、工場の技能系社員への浸透活動に力を入れていきます。階層別研修・昇格者研修では「Our Philosophy」を自分事として考えるワークショップ形式のセミナーを実施し、「Our Philosophy」の体現につなげていきます。

目標値:
浸透段階フェーズ3「共感」の従業員割合
— 2030年 —
80%

※ 従業員に対する「Our Philosophy 浸透度調査」で到達度を測定

2020年
「Our Philosophy」策定
フェーズ 1 認知

2021年度〜
「Our Philosophy」を知る
「Our Philosophy」の全体像、導入の背景や策定のポイントについて共有。
フェーズ 2 理解

2022年度〜
「Our Philosophy」の自分事化
自身や自部署組織の「安心・ヨロコビ・イノベーション」「多様な力をひとつにするための課題」「住友ゴムWAYの実践」について考察。
フェーズ 3 共感

2023年度〜
「Our Philosophy」体現に向けた、さまざまな取り組み
「Our Philosophy」体現に向け、個人・組織・会社を成長させるための共通テーマを学ぶ。
フェーズ 4 実践

目指す浸透段階

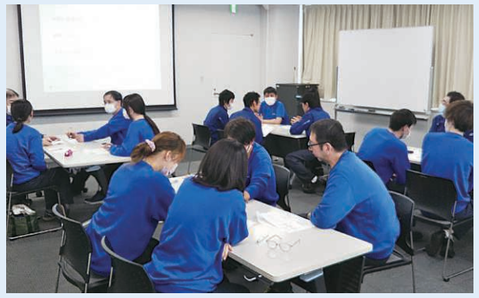
TOPICS トピックス

工場での企業理念浸透活動を実施

2024年現在は各工場で交替勤務をしている技能系社員への浸透活動を中心に実施しています。

セミナーでは、自分や自職場にとっての「最高の安心」は何か、「最高の品質」は何か、「住友ゴムWAY」の3つの価値観を踏まえてどう行動するかを考え、議論、共有し、「Our Philosophy」を体現できるようにするためのワークショップを展開しています。

職場の管理監督者から現場の一人ひとりまで、「Our Philosophy」の「共感」と「実践=体現」を目指し、継続的に浸透活動を進めていきます。



Cover Story 04

各事業のいま

住友ゴムグループは、1888年に世界で初めて「空気入りタイヤ」の実用化に成功した獣医ジョン・ボイド・ダンロップの独創性を受け継ぎ、人々の暮らしや産業、社会に貢献するさまざまな「世界初」「日本初」をはじめとする独自技術を生み出しながら、タイヤ、スポーツ、産業品の3事業を展開してきました。

そして今、「ゴムの先へ。はずむ未来へ。」を掲げ、お客様の「安心」と「信頼」に応え、「ヨロコビ」にあふれる健やかで豊かな社会の創造に貢献することを目指しています。

タイヤ事業

P35

—もっと、走る、喜びを—

安全性と環境性を追求するパイオニアブランドの「DUNLOP（ダンロップ）」、走りを楽しむ人に向けたグローバルブランドの「FALKEN（ファルケン）」をメインブランドに、乗用車用、トラック・バス用、産業車両用など暮らしや社会にかかわる様々なシーンで活躍する人と環境にやさしいタイヤづくりに挑んでいます。

自動車用

普通乗用車からトラック・バス用など多くの自動車用タイヤをラインアップ。夏用タイヤ、冬用タイヤ、オールシーズンタイヤなど幅広い用途に対応しています。

レース・ラリー用

スピードや耐久性など、各競技で求められる用途に沿って専用開発し、レースやラリーでの活躍をサポートしています。

農耕機用

トラクタ、耕うん機、運搬車、作業機など、農業の現場で活用される農耕機に対応した製品です。

建設車両用

過酷な環境にある作業現場にも対応し、安定した作業と効率の向上を実現する製品を提供しています。

産業車両用

高荷重・低速運転などさまざまな条件に対応した製品です。用途により空気入りタイヤ、トラクッシュタイヤ、ゴムソリッドタイヤなど複数の構造を適用しています。

モーターサイクル用

オンロード用からオフロード用、ミニバイク用からビッグバイク用まで豊富なカテゴリーの二輪用タイヤを取り揃えています。

タイヤパンク応急修理キット

パンクしたタイヤに修理材を注入し空気を充填することで一時的な走行を可能にする修理キットは、多くの車両に採用されています。

間接式空気圧警報装置（DWS）

タイヤの回転により発生する車輪速信号を解析することでタイヤの空気圧低下を検知し、ドライバーに知らせるソフトウエアです。

スポーツ事業

P39

—お客様のスポーツライフをもっと豊かに。—

高い技術力をより豊かなスポーツライフのために。ゴルフクラブやテニスラケットなど使いやすく高機能な製品を提供するとともに、ゴルフ・テニススクールやフィットネスクラブなどの運営に取り組み、お客様の心と体の健やかな毎日をサポートしています。

ゴルフ

テニス（およびその他ラケットスポーツ）

ウェルネス

産業品事業

P41

—日々の暮らし・街づくりに、最高の安心・安全・快適、そしてヨロコビを—

これまで培ってきたゴム技術をベースに、産業インフラから医療・生活用品まで、人の命、健康、移動を守り、暮らしを守る商品を提供しています。

医療用ゴム製品

建築フロア

ゴム手袋

樹から生まれた手袋

制振ダンパー

MIRAIE

スポーツ人工芝

Hibrid-Turf

Cover Story 05

未来の製品・サービス技術

新たなる価値。

～センシングコアで描く未来～

住友ゴムグループは、タイヤ技術の先進コンセプト「スマートタイヤコンセプト」に基づき、従来のタイヤ開発・製造にとどまらず、タイヤの空気圧や摩耗状態・路面状況などを検知できる独自のセンサーレスのセンシング技術「センシングコア」を核に、ソリューションビジネスである「センシングコア」ビジネスの展開を進めています。

この新たなビジネスで、交通事故のない社会や将来の自動運転の実現など、モビリティ社会の発展に貢献していきます。

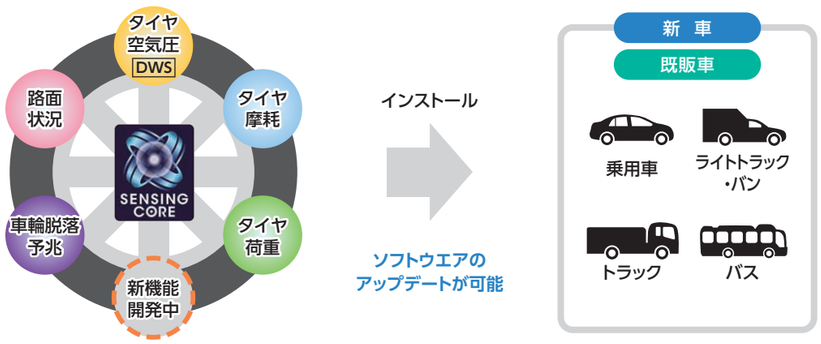
センシングコア技術と提供価値

センシングコアは、当社が独自に開発したソフトウエアです。1997年から四半世紀以上の実績を持つ間接式空気圧警報装置（DWS）技術をベースに、タイヤの空気圧や荷重・摩耗状態、さらには路面状況や車輪脱落予兆などの情報をリアルタイムで検知し、車両やドライバー、運行管理者に提供します。車両にインストールされたソフトウエアは、装着されたタイヤの特性を自主学習します。あらゆる車両・タイヤに対応するとともに、アップデートにより機能拡張も可能です。

現在の検知機能は、「タイヤ空気圧」「タイヤ荷重」「路面状況」「タイヤ摩耗」「車輪脱落予兆」の5つで、さらに「EV向けタイヤ損傷検知」などの新機能開発も進めています。

センシングコアは、タイヤ点検の自動化やメンテナンス時期の管理、スローパンク検知など、さまざまな価値提供を実現します。将来的には、道路管理など社会インフラの保守への活用も期待されています。クラウドにアップされたデータを独自のアルゴリズムで解析し、モビリティサービスや運送事業者における安全運転やコスト削減に貢献します。

このようにセンシングコア技術は、安全性向上、自動運転、MaaS、環境負荷低減など、自動車産業の未来を大きく変革する可能性を秘めています。

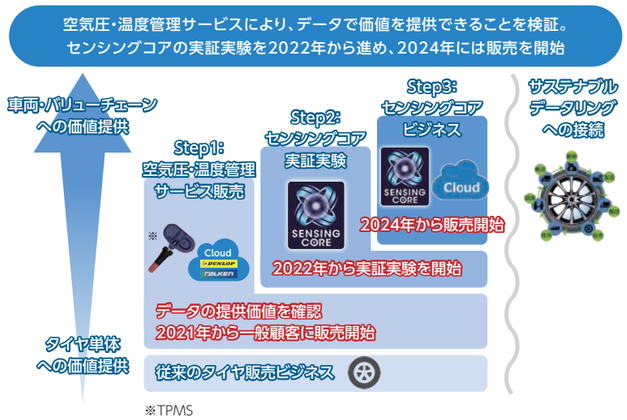


センシングコアビジネスの展望

「センシングコア」ビジネスの展開に当たっては、3つのステップからなるロードマップを描いています。

Step1として2021年から開始した「空気圧・温度管理サービス」は、TPMS（タイヤ空気圧管理システム）で収集したデータに基づき点検作業を効率化し、空気圧不足による燃費・ライフ性能の低下を未然に防ぐものです。独自のアルゴリズムによる解析で、手作業では発見が難しいスローパンクも検知可能になりました。

さらにStep2として、2022年から「センシングコア」の実証実験を開始しました。2024年からはいよいよStep3として「センシングコア」の販売を開始します。2030年には事業利益100億円以上を目指します。



※TPMS

進化し続ける技術。

TOPICS トピックス

世界最大級のハイテク技術見本市「CES2024」に「センシングコア」ブースを出展

2024年1月に米国・ラスベガスで開催された世界最大級のハイテク技術見本市「CES2024」に、「センシングコア」ブースを出展し、センシングコアを用いた新たなモビリティ社会のニーズや期待に応える先進的な取り組みを紹介しました。

4日間で延べ1,000名以上がブースを訪れました。多くの自動車メーカーや新興EVメーカーに当社のセンシングコア技術に興味を持っていただき、新車への搭載や実証実験の検討など新たな機会の創出につながる話ができました。

今回の出展を通じて、自動車業界やIT業界など幅広い分野との協業を加速させ、モビリティ社会の変革に貢献していきます。

トータルフリートマネジメントサービス※の実現に向け米・車両故障予知会社「Viaduct」へ出資

当社は、メンテナンス・保険・リースなどを組み合わせたトータルフリートマネジメントサービスを2020年代後半に実用化することを目指しています。

その実現に向け、AIを活用した車両故障予知ソリューションサービスを提供する米国のベンチャー企業であるViaduct社（バイアダクト社）との共同実証実験を2023年7月から開始し、2024年1月には同社との戦略的パートナーシップをさらに強固なものとするために出資を行いました。

タイヤ以外の車両部品の故障予知を行うViaduct社のAIを活用した車両故障予知ソリューションサービスと、当社のセンシングコアで得たタイヤの解析データを組み合わせることで、車両全体の状況を把握することが可能になります。このトータル車両故障予知ソリューションサービスの提供によって、フリート事業者および自動車メーカーが抱える課題に対し、走行時の安全性向上、車両稼働率の向上、メンテナンスコストの削減が期待できます。

※フリートマネジメントシステムとは:
法人や団体が所有する業務用の車両を効率よく管理するシステム

Message メッセージ

センシングコアをモビリティ社会のスタンダードに

センシングコアは、車輪の回速信号を解析し、タイヤ周りの状態や状況を検知する当社のオリジナル技術です。2024年からは、解析で得られた情報を使って、新たな価値を提供する“コト売り”ビジネスを展開していく予定です。例えば、センシングコアでタイヤの空気圧や摩耗状態を検知して、効率的な運行管理に活用することで輸送業界の2024年問題やカーボンニュートラル等の社会課題の解決に、また車輪脱落予兆を検知してドライバーにフィードバックすることで安全安心な車両運用に貢献できることを期待しています。

さらに、センシングコアから得られた情報と他企業が持つ情報を組み合わせることで、今までにないソリューションサービスの提供につなげるべく、パートナー企業の開拓にも力を入れています。このように、センシングコア技術の進化と新たな価値の提供を通じて、将来のモビリティ社会の発展に貢献していきます。

執行役員
オートモーティブシステム事業部長
朝倉　健